**ヨハネの福音書　第６章　41～71節**　　　　　6月12日 レポーター　鶴井

Q1

41節「私は天から下ってきたパンである」48節「わたしはいのちのパンです」

51節「またわたしが与えようとするパンは～わたしの肉です」54節「わたしの肉を食べ、血を飲むものは永遠のいのちを持っている」などと述べられているが、ここでいう「肉（パン）」は物質的な肉を表しているのか、比喩的なものか。比喩的なものとすると何のメタファーであったのか。

♪　比喩　文字道理自分の中に取り入れる　神の国に行くため　肉→イエスの教え

塁　サマリアの女同様でないか

Ｆ　メタファーである

塁　信仰の糧を自分の中に取り入れかくとせよ　ということのたとえ

＠　パンなのか肉なのか？

塁　今までの続きで導入でぱんといったのではないか

＠　たとえがグロイ

宮　十字架の伏線　イエスが犠牲になることをしめすため、必要

Q2

42節でユダヤ人がイエスの生い立ちを指摘し、救い主としての存在に疑問を抱いている。一見不利な条件にしか見えないが、イエスが普通の家庭から生まれ救い主となったことに意図があったのだろうか。

宮　人間として生まれたことを強調？

ｈ　100％一般人として生まれることで、神の力を証明しやすい

塁　上からではなく、下から救うことでみんな救える

＠　モーセは王ではないか？

氏　モーセももとは奴隷。神の導きにより王に

♀　身分が高くないことで、率いるのではなく考えを解ってもらいやすい

Q3

そうした身分や家柄の低いイエスを神の子と認め信じることができるのか。イエスキリストを信じる道を44～45節で「父が引き寄せられない限り」「神によって教えられる」65節「父のみこころによるのでないかぎり」と説き神に主体性をおいているが、逆に我々は常に受動的であり何もできないのか。

♪　受動的とは言えない　信仰することは能動的に見えるが、イエスはわかっているため、こういった　イエス言い過ぎた

Ｆ　最後に信じるかは自分で決められる

水　神の一方的な恵みで救われる。人間の行動ではない。信じることは能動的。神からのプレゼントを受け取るかどうかは自由。重要な問題

宮　「いつもわたしのうちにおり、その人も私のうちにある」ってなにをいいたいのか？

塁　後者は信仰心のこと

宮　対比させている理由は？

♀　イエスに近い存在になれるのでは

＠　イエスと関われる　双方向で関われる

Q4

61～62節でイエスの話を信じようとしない弟子に「このことでつまずくのか」「では、人の子がもといた所に上るのを見たら、（どうなるのか）」と帰結文を曖昧にぼかしているが、ここでイエスが示そうとしたことは何か。

補足　人の子がもといた所に上る　とは何を示唆しているのか

＠　イエスは裏切りを知っていたのになぜほっといたのか

塁　裏切られ、十字架までプラン

＠　レールに乗っているだけなのか？

氏　イエスは祈っている。ユダには自由意思で最後まで改心してほしかったのでは

塁　最初からきまっているのか

水　人間は神の被造物であるが、ロボットではない。自由意思はある。ユダの裏切りを止める方法はあったが、イエスは自由意思に任せた。人間に選択権がある。

氏　イエスはユダを信頼

水　マタイ　26.25 ユダの裏切りを告げる

＠　他の弟子の反応は？

塁　強気ですね

水　金に目がくらんだ。のちに首をつって死ぬが、そこも悔い改めるチャンスだった

氏　わからなかったのでは？　信じたくなかったのかも

Q5

63節で、イエスがさんざん「肉」の重要性を訴えてきたのにも関わらず「肉」を無益だと手のひらを返したような発言をしているがこれまで言ったことと矛盾していないか。

目　ここでの肉は今までのと違い、実際の肉　もしくはイエスの教えを自分のものにしなければ意味がない

φ　イエスのリアル肉は意味ない。今までの肉ではない

ｈ　肉は世俗の象徴　肉より霊が大切であることを言いたい。また次への導入

宮　弟子へわかりやすく説明したかった

水　かつて肉はけがらわしいものだった。そのイメージを払拭

＠　3.6との繋がりは？

氏　血統のことでは

φ　“しんじる”と“しる”の違いは？

♪　知っているのほうが強いような

＠　信じるはクリスチャン。知るは

氏　別の問題。しっても信じない人はいる。まだ知っている途中

φ　知るは理解する。信じるは信じる。

水　ここではいっしょ　しるは人格的に理解。深い。

水　6.35　イエスの自己紹介について

塁　サマリアの女と同じ　イエスの教えにより

目　おなじ

♀　同じ

Ｆ　同じ

水　「天から下ってきたパン」　どんな印象を受けたか

塁　回りくどい

宮　なかなか想像できない　漠然としたイメージしか持てない

ｈ　パンと同じくらい大切をわかりやすく　親しみやすさをもつ

♀　面白い　なんで食べ物に　神々しくない　わかりやすい

Ｆ　へん　天からのぱんはない　生きたパンなどない

氏　マンナと対比　マンナを食べても死んだが、てんのわたしのパンは死なない　昔はわかりやすい

φ　アンパンマンとおなじ　こんなパンあったら楽しい　食べ物にしたのは受け入れて心の糧にするため

＠　いらない　腹がすくからおいしい　飢えも嫌だが…

♪　出尽くした　すばらしい　しっくりくる　パンだけだと変だが　神様ありがとう

水　飢えがなくなれば新たな飢えが来る。心の飢えを感じた人も満たされる。永遠は物理的ではなくイエスと生きることが永遠。信じるがキーワード。

信じて読めばよくわかる。信じて読んでみよう

参考

ヨセフ・・・イエスの父とされている（神の方ではなく）。大工をしており、イエス以外にも子がいて（イエスの兄弟）貧しい暮らしをしていた。

預言者・・・神のことば、それも倫理性を強く帯びたことばを、神から預かって語る人々

マナ・・・何の産物か諸説あるが、露が乾いたあとに残る薄い鱗もしくは霜のような外見であり、

　　　　白く、蜜を入れたせんべいのように甘いとされる

カペナウム・・・ガリラヤ湖の北西岸にある町。今日のイスラエルのテル・フームにあったとされている。

十二弟子・・・最初にイエスによって選ばれた12人の弟子集団。イエスの復活の証人であった。

シモン・ペテロ・・・ペトロとも。十二弟子のリーダー的存在。

イスカリオテ・・・ユダヤ地方のカリオテ村の人の意。

聖餐式（せいさんしき）・・・イエスが最後の晩餐でパンとぶどう酒を弟子たちに与え「パンは私のからだであり、杯は私の血による契約である」と言った言葉を記念して、パンとぶどう酒を会衆（かいしゅう。キリスト教会の者らのこと）に分けるキリスト教の儀式。